

2019 年度  
C 級審判審査  
筆記試験問題

B

(公財) 日本ハンドボール協会審判委員会

1. 7 m スローの開始の合図の後、防御側 A チームのゴールキーパーの片足がゴールキーパーラインに触れた。投げたボールはクロスバーの上を越えていった。
  - (a) 笛の合図の後に 7 m スローを再度実施する。
  - (b) 得点ではないので、ゴールキーパーズローにより競技を続行する。
  - (c) ゴールキーパーの位置取りは正しい。
  
2. 記録用紙に記載されており、競技場にいないプレイヤーは、少なくとも何名か。
  - (a) 5 名のプレイヤー
  - (b) 4 名のコートプレイヤーと 1 名のゴールキーパー
  - (c) 5 名のコートプレイヤーと 1 名のゴールキーパー
  - (d) 6 名のプレイヤー
  
3. A チームが相手陣で攻撃しているとき（インプレー中）、A4 が交代ラインの外側を通過して自陣のコートから出てしまった。A4 がサイドラインを越えて交代地域に戻りつく前に、A11 は正しい場所からコート内に入った。タイムキーパーの笛の後にとる処置はどれか。
  - (a) A4 がコートから出てしまった場所から、B チームのフリースロー
  - (b) A チームの交代ラインから、B チームのフリースロー
  - (c) A4 を 2 分間退場
  - (d) A11 を 2 分間退場
  - (e) A4 と A11 を 2 分間退場
  
4. ゴールキーパー B はシュートを止め、速攻で走っている味方のプレイヤーにボールを投げようとしたときに、左足でゴールエリアラインを踏み越した。
  - (a) そのまま競技を続行
  - (b) A チームのフリースロー
  - (c) 笛の合図の後にゴールキーパーズローを再度実施

5. B チームのスローインになった。B7 は正しくスローインの位置について、ゴールキーパー A12 がゴールのかなり前に立っているのに気づいて、無人のゴールをめがけて直接シュートを狙った。コートプレイヤー A3 がゴールエリア内に侵入してボールを止めた。

- (a) 得点
- (b) B チームのフリースロー
- (c) B チームの 7 m スロー
- (d) A3 に段階的罰則を適用

6. A チームのシュートしたボールが B チームのゴールポストにあたって跳ね返り、ゴール近くでゴールエリア内に立っていたレフェリーにあたった。このため、ボールはアウターゴールラインではなく、サイドラインを越えて出てしまった。

- (a) A チームのフリースロー
- (b) B チームのスローイン
- (c) B チームのゴールキーパースロー

7. A8 はプッシングにより 2 分間退場となった。A8 はレフェリーに近寄り、「間抜け、馬鹿野郎、おまえは何も分っていない」などと罵った。さらにコートから出る前にレフェリーの顔に唾をかけた。

- (a) A8 を失格（ブルーカードを提示しない）とし、A チームはコート上のプレイヤーを 2 分間 1 名減らす。
- (b) A8 を失格（ブルーカードを提示しない）とし、A チームはコート上のプレイヤーを 2 分間 2 名減らす。
- (c) A8 を失格（ブルーカードを提示する）とし、A チームはコート上のプレイヤーを 4 分間 1 名減らす。
- (d) A8 を失格（ブルーカードを提示する）とし、A チームはコート上のプレイヤーを 2 分間 2 名減らす。

8. A6 は片足をコート内に、他方の足をサイドラインの外側に置き、サイドラインを踏まずに立っていた。この状態で A6 はスローインを行い、直接シュートを決めた。
- (a) 再開の合図の後に A チームのスローインを再度実施
  - (b) B チームのフリースロー
  - (c) 得点
  - (d) B チームのゴールキーパーズスロー
9. 「極めてスポーツマンシップに反する行為」、すなわちレッドカードの後、ブルーカードを提示する失格に相当する行為はどれか。
- (a) コートプレイヤーが、足の膝より下の部位で繰り返し防御する。
  - (b) チーム役員が明らかな得点チャンスを妨害する。
  - (c) 他者に唾を吐く。
  - (d) 時間を浪費するために、繰り返し競技を遅延させる。
10. プレイヤーを退場としたとき、この退場は誰に示さなければならないか。
- (a) 退場としたプレイヤー、タイムキーパー・スコアラー
  - (b) チーム責任者とタイムキーパー
  - (c) タイムキーパー・スコアラー
  - (d) 退場としたプレイヤー、チーム責任者、スコアラー
11. プレイヤーの違反に対して、コートレフェリーが失格とフリースローを判定した。ゴールレフェリーは 2 分間退場と 7 m スローを判定した。どちらの罰則をプレイヤーに適用し、どのようにして競技を再開するか。
- (a) 2 分間退場
  - (b) 失格
  - (c) フリースロー
  - (d) 7 m スロー

- 1 2. A チームのプレーヤーが負傷し、タイムアウトが必要になった。レフェリーがコートへの入場許可を合図し、A チームのドクターが負傷したプレーヤーの処置をしていた。一方、A チームのコーチは加害者と思われる B5 を交代地域まで追いかけていき、そして B5 の顔を殴った。
- (a) コーチを失格とし（ブルーカードを提示する）、A チームはコート上のプレーヤーを 2 分間 1 名減らす。競技の中断の理由に相応しいスローで笛の合図の後に競技を再開する。
  - (b) コーチを 2 分間退場とし、B チームのフリースローとする。
  - (c) コーチを失格とする（ブルーカードを提示しない）
  - (d) 試合後、報告書を作成する。
- 1 3. ボールは味方のプレーヤーにあたって、ゴールエリアに跳ね返ってきた。ゴールキーパー A1 はゴールエリアからジャンプして空中でボールをキャッチし、ボールをしっかりと持ったままゴールエリアの外に着地した。
- (a) そのまま競技を続行
  - (b) A チームのゴールキーパーズスロー
  - (c) B チームのフリースロー
  - (d) B チームの 7 m スロー
- 1 4. 競技中、A チームのコーチは戦術を与えるためにオフィシャル席のすぐ傍まで繰り返し近づいた。そうこうするうちに、A チームのコーチはそこからレフェリーの判定に抗議したが、場内の騒音でレフェリーは抗議に気付かなかった。
- (a) タイムキーパーは直ちに競技を中断し、コーチの違反行為をレフェリーに知らせる。
  - (b) タイムキーパーは次の競技の中断まで待ち、コーチの違反行為をレフェリーに知らせる。
  - (c) コーチに段階的罰則を適用する。
  - (d) 罰則を適用しない。

15. フリースローを行う位置に関する正しい記述はどれか。

- (a) 相手チームへのフリースローが判定されたときに直ちにボールを床に置かなかった場合、相手はボールのある位置からスローを行ってよい。
- (b) 不正交代の場合、交代地域前よりも（スローを行うチームにとって）有利な位置にボールがあったときは、ボールのあった位置からフリースローを行う。
- (c) パッシブプレーの違反の場合、フリースローが判定されたときにボールのあった場所からフリースローを行う。
- (d) センターラインからフリースローを行うとき、横方向の許容範囲はスローオフの場合と同じである。

16. A チームがスローオフを行おうとしていた。コートレフェリーがスローオフの合図の笛を吹いた。A13 は、A7 と A3 が相手陣の半ばまで走っていて有利な場所にいると分かったので、スローオフをしようとしていた A9 からボールを奪い取って A7 にボールを投げた。A7 はシュートを決めた。

- (a) A チームの得点
- (b) 誤りを正し、A チームのスローオフを再度実施
- (c) B チームのフリースロー
- (d) A13 に口頭で注意
- (e) A13 と A7 に口頭で注意

17. どの場合にゴールキーパーズローとなるか。

- (a) ボールを持っている攻撃側プレーヤーが、相手のゴールエリアに侵入した場合。
- (b) ボールを持っていない攻撃側プレーヤーが相手のゴールエリアに侵入し、これによって有利になった場合。
- (c) 攻撃側プレーヤーが相手のアウターゴールラインを越えてコート外にボールを出した場合。
- (d) ボールを持っているプレーヤーが自チームのゴールエリアに侵入した場合。

18. A7 はスポーツマンシップに反する行為により、1 回目の 2 分間退場となった。競技の再開後、ベンチに下がった A7 はレフェリーの判定に納得できないことをジェスチャーで大げさにアピールした。

- (a) 失格とする。
- (b) 2 分間退場とする。A7 は 4 分間ベンチにいないといけない。
- (c) A7 を 2 回目の 2 分間退場とし、この退場を直ちに適用する。1 回目の退場時間が残っているため、チームはさらにコート上のプレーヤーを減らさなければならない。
- (d) 警告とする。交代地域内での罰則とコート内での罰則は区別して扱うため。

19. タイムアウトを取らなければならないのはいつか。

- (a) チーム役員が 2 分間退場となったとき
- (b) プレーヤーが 3 回目の 2 分間退場となったとき
- (c) スポーツマンシップに反する行為を繰り返したとき
- (d) 両レフェリーの協議が必要になったとき
- (e) 著しくスポーツマンシップに反する行為をしたとき

20. A9 は B チームのゴールに向かってシュートを打った。ゴールキーパー B1 はシュートを止めたが、ボールは B チームのプレーヤーが待ち構えているプレーイングエリアに向かって転がっていった。ゴールキーパー B1 はシュートを止めたときに負傷したので、ボールがゴールエリア内にある時点でレフェリーは競技を中断した。

- (a) A チームのフリースロー
- (b) B チームのゴールキーパーズスロー
- (c) B チームのフリースロー

21. 前半の 29 分 0 秒に、A5 は 2 分間退場となった。ハーフタイム休憩の後、コートレフェリーは笛を吹いて後半を開始させた。その 3 秒後、タイムキーパーが笛を吹いて「A5 はベンチに下がっているが、A チームのプレーヤーがコート上に 7 名いる」と伝えた。

- (a) A チームのプレーヤー 1 名がコートから去らなければならないが、罰則は付加されない。
- (b) A チームのプレーヤー 1 名を 2 分間退場とする。
- (c) さらにもう 1 名のプレーヤーが 57 秒間コートから去らなければならない (A チームは 2 名減らす)。

22. B チームはゴールキーパー不在で、コートプレーヤー7名で攻撃をしている。B7 がシュートを打ったがボールは A チームのゴールキーパー A12 によって阻止され、A12 より速攻に出た A3 へ投げられた。A3 はボールをキャッチしシュートしたが、そのシュートは帰陣してゴールエリア内にいた B チームのコートプレーヤー B6 によって阻止された。

- (a) B チームの7mスロー
- (b) A チームの7mスロー
- (c) そのまま競技を続行
- (d) B6 に罰則を与える
- (e) 罰則は不要

23. B14 がコート上でスリップし倒れた。B14 は激しく頭部を床に打ち付けたため、レフェリーはタイムアウトを取り、治療が必要と判断し、ゼスチャー16（2名までの入場許可）をした。

- (a) B チームのチーム役員はレフェリーの指示に従わなければならない、救護のため2名までをコートに入れなければならない。
- (b) B14 に続けて競技に参加してほしいのであれば、救護のための2名までをコートに入れる必要はない。
- (c) B チームのチーム役員がレフェリーの指示に従わないのであれば、B14 に罰則を与える。
- (d) B チームのチーム役員がレフェリーの指示に従わないのであれば、B チームのチーム責任者に罰則を与える。

24. A チームのゴールキーパー A12 の頭部に B2 が放ったシュートが直撃した。A12 はその場に倒れ込み、レフェリーは A チームの役員に入場許可を与えた。

- (a) コート上での治療行為なので、A12 はコート外に出なければならない。
- (b) 治療が短時間で終わり、続行が可能であれば A12 はそのままコートに残ることができる。

25. B チームの攻撃中、B チームのチーム役員がグリーンカードを持ち、コーチングゾーンを越えて TD のもとへきた。彼がカードをテーブルに置こうとした際、ボールが A チームへと渡り、置いたときには B チームの所持になっていた。



- (a) コーチングゾーンを越えたときにはまだ A チームの所持であったので、チームタイムアウトを認める。
- (b) TD は笛を吹き時計を止め、チームタイムアウトが無効であることを、明確に伝える。
- (c) TD は笛を吹いてはならず、チームタイムアウトを認めてはならない。
- (d) グリーンカードを返す。
- (e) グリーンカードは返せない。